

石油燃焼機器の過去の事故一覧 ②石油ストーブ および 石油こんろ

No	メーカー名	事故発生年月日	品 目	型式機種	被害 区分 (注)	事故内容	製品 の使用期間	事故原因				調査期間	備 考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
1	(株)ニッセイ	2006	石油ストーブ	NCH-S24L	④	火災現場にストーブがあった	4年以上	詳細情報なし			○ 不明	2001年1月～2006年12月	2006/12/22宮城県塩釜警察署
2	(株)コロナ	2006	石油ストーブ	SX-3080Y	④	木造2階建て住宅から出火し、約240平方メートルを全焼した。警察では居間で使用していた石油ストーブが爆発音を立てた後、異常燃焼し、床に燃え広がったとのこと。	不明	製品自体に事故の原因らしいものは見当たらないため原因は不明			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
3	(株)トヨトミ	2006	石油ストーブ	RS-L21	④	アパート全焼。警察署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	構造図、取扱説明書送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
4	(株)コロナ	2006	石油ストーブ	RX-D27WB	④	住宅から出火し、居室約13平方メートルを焼き、家人2人が手に焼けを負った。	不明	消防の調査では、被害者が石油ストーブのカートリッジタンクに給油の際、灯油と2サイクルエンジン用燃料を間違えて給油した為異常燃焼を起こし火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
5	(株)トヨトミ	2006	石油ストーブ	RCA-26	④	警察より、発生した火災に関連して、給油口の緩み、ガソリン使用の場合や他の情報照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	照会事項の回答。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
6	(株)トヨトミ	2006	石油ストーブ	NT-21	④	小型漁船内で使用中の火災について、海上保安庁から照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	船舶内での油漏れ、引火の可能性など回答「詳細不明」「誤使用?」		○		1981年4月～2006年12月	
7	(株)トヨトミ	2006	石油ストーブ	RS-216	④	住宅火災 出火の可能性のあるものとして照会があった。	不明	ハド [®] 軸の方向が、芯の最下点よりわずかに上がった状態になっている。芯は下がっている状態でありますが、使用されていたかは判断できない。ハド [®] 軸の向きからすれば燃焼不可能位置。「詳細不明」			○	1981年4月～2006年12月	
8	(株)トヨトミ	2006	石油ストーブ	RCA-86B	④	ストーブ周辺から火が出た。建物3棟。火元に芯が上がった状態のストーブ有	13～16年	カートリッジタンクの口金が緩んでいた。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
9	(株)コロナ	2006	石油ストーブ	RX-D18	④	木造二階建て住宅から出火し、約58平方メートルを焼き、家人が煙りを吸い込むなどの軽症を追った。	不明	消防の調査では、石油ストーブの近くにあった寝具が輻射熱により過熱し、出火したものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
10	(株)ニッセイ	2006	石油ストーブ	NC-23D	④	ビニールハウスの火災	生産1988年 日常的には使用 していない	ビニールハウスにて使用点火後しばらく離れて戻って来るとハウス全体が燃えていた			○	2001年1月～2006年12月	2006/3/16独立行政法人製品評価技術基盤機構 北陸支所
11	(株)トヨトミ	2006	石油ストーブ	R-31	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	仕様書の照会があったのみ。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
12	(株)コロナ	2006	石油こんろ	SH	④	石油こんろから出火し、家屋を全焼した。消防では、石油こんろの上に餅を焼いた後の網を置いたまま、消し忘れて外出したとのことから原因を調べている。	不明	廃棄されていた石油こんろを被害者が使用して餅を焼いていた後の網を載せたまま消し忘れて外出したことから、長時間の燃焼により網で遮られた燃焼熱がタンク本体の温度上昇を引き起こし、灯油の気化が促進されて炎が延びたため放熱ネットにススが付着し、異常燃焼を起こし出火に至ったものと推定される。		○	1995年4月～2006年12月		

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
13	㈱トヨトミ	2006	石油ストーブ	HRS-L21	④	当日、午後8時頃、帰宅して点火、約30分で火災に至る。1棟全焼、2棟半焼。消防局と警察にて火元をHRS-L21と断定	2週間	製品そのものに起因して、火災に至ったとは考え難く、製品外部から類焼、または製品に可燃物が付着、これが燃焼したことによって操作パネル付近から油タンク油量計にかけて類焼、油量計が溶け、灯油が流出、さらに製品が燃えたものと推定。「原因不明」			○	1981年4月～2006年12月	
14	㈱ニッセイ	2006	石油ストーブ	NC-S233D	④	火災現場にストーブがあった	生産1992年	詳細情報なし			○ 不明	2001年1月～2006年12月	2006/12/11埼玉県狭山市消防本部富士見分署
15	㈱ニッセイ	2006	石油ストーブ	NCH-S24L	④	火災	4年以上	給油後のキャップ締付不具合によりキャップ外れによる火災		○		2001年1月～2006年12月	2006/12/8世田谷消防署予防課
16	㈱コロナ	2005	石油ストーブ	SX-E331WY	①④	木造2階建て住宅から出火して約260平方メートルを全焼し、家人が死亡した。	不明	ストーブが事故発生時着火状態であることが確認され、ストーブ前方にワンタッチ式のカートリッジタンクがふたの閉まった状態で放り出されており、給油作業時の作業ミスの可能性があるが、被害者が死亡しているため詳細な状況がわからず、原因の特定はできなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
17	㈱トヨトミ	2005	石油ストーブ	RCA-68	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
18	㈱コロナ	2005	石油ストーブ	SX-E351WY	①④	木造2階建て住宅から出火し、約444平方メートルを全焼して、逃げ遅れた家人が死亡した。	約1年6月	被害者がストーブを誤って転倒させた際、油受け皿内の灯油が流出したため、燃焼筒の炎が引火し、火災に至ったものと推定されるが、ストーブには転倒消火装置があり、事故当時の転倒状況、芯の作動状況が不明のため、原因の特定はできなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
19	㈱コロナ	2005	石油ストーブ	SX-3020	④	石油ストーブにカートリッジタンクを設置しようとしたところ、ワンタッチ式のふたが開き灯油が一部こぼれてストーブの火に着火し、燃え広がり木造2階建て住宅を全焼した。	不明	カートリッジタンクふたの給油口口金を支える金具が変形していたことから、ふたが完全に閉まらない状態でセットしようとしたため、漏れた灯油が燃焼筒にかかり炎上し出火したものと推定されるが、金具変形の原因については特定はできなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
20	松下電器産業㈱	2005	石油ストーブ	OS-234	④	製品焼損・畳の縁を焦がした。	不明	燃焼中の風の吹込みにより置き台のほこりに引火(推定)		○		1987年1月～2006年12月	
21	シャープ㈱	2005	石油ストーブ	HSR-26S	④	一室全焼、1名火傷	10年	給油タンク落下での口金変形による油漏れ (消防調査結果)		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
22	㈱ニッセイ	2005	石油ストーブ	NCH-S24LD	④	火災	2年以上	詳細情報なし			○ 不明	2001年1月～2006年12月	2005/3/31札幌地方検察庁
23	㈱トヨトミ	2005	石油ストーブ	RS-233	①	火災事故2名死亡。木造平屋建て住宅から出火、約48㎡を全焼。消防本部から「部品の材質」「通常、油受け皿の下側に油が入り込むことがあるか」等問合せ有	不明	消防の調査では、石油ストーブの近くで給油していたところ、灯油をこぼし、マッチで点火する際、こぼれた灯油に引火し、出火したものと見ている。		○		1981年4月～2006年12月	
24	㈱コロナ	2005	石油ストーブ	SL-111	④	木造2階建て住宅から出火し、約360平方メートルを全焼して、家人が顔などに重症の焼けを負った。	不明	消防の調査では、被害者が鍋が温まり易いようにストーブの天板部中央部分をくり抜き、煮物をしているアルミ鍋を載せたまま放置したため、アルミ鍋が溶融し付近の可燃物に着火し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
25	(株)コロナ	2005	石油ストーブ	SX-E28Y	④	木造2階建て民宿兼住宅の1階の石油ストーブから出火し、畳等を焼き消火器で消し止めた。	不明	調査中			調査中	1995年4月～2006年12月	
26	(株)トヨトミ	2005	石油ストーブ	RS-216	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
27	(株)コロナ	2005	石油ストーブ	SX-E350Y	④	民家の1階台所で石油ストーブから出火し、天井の一部やカーテンなどを焼き、家人が顔に軽い火傷を負った。警察では、石油ストーブをつけたまま燃料タンクに給油し、ストーブに戻したときに引火したとみて原因を調べている。	不明	調査中			調査中	1995年4月～2006年12月	
28	(株)ニッセイ	2005	石油ストーブ	NCH-S30LD	④	火災	1年以上	ガソリン使用による火災			○	2001年1月～2006年12月	2005/12/14四国中央消防本部
29	(株)コロナ	2004	石油ストーブ	SX-2200	④	木造平屋建て住宅から出火し、約90平方メートルを全焼して家人が顔に火傷を負った。消防では、石油ストーブのあった居間の燃え方が激しかったことから原因を調べている。	不明	調査中			調査中	1995年4月～2006年12月	
30	(株)トヨトミ	2004	石油ストーブ	KRA-85C	④	木造一部二階建て店舗住宅から出火。一階事務所の机などを焼いた。2名火傷(軽症)	5年	消防の調べでは、石油ストーブが何らかの原因で異常燃焼し、ストーブの底部の一次空気取入れ口から炎が吹き返したため付近の床面に着火し出火したものと見ている。			○	1981年4月～2006年12月	
31	三洋電機(株)	2004	石油ストーブ	OHC-43C	④	事務所の天井約1.2m ² を焼損し、1名が軽い火傷を負った。	不明	消防によれば、誤ってガソリンを入れたための火災との報告。			○	1986年1月～2006年12月	
32	シャープ(株)	2004	石油ストーブ	HSR-24L	④	家屋2階部分の24m ² を焼損	2～4年	ストーブの上に落ちた洗濯物から火災に至った(消防調査結果)			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
33	(株)トヨトミ	2004	石油ストーブ	RS-921	④	当日、8時20分ごろ出火、木造2階建て住宅の2階部分約20㎡を焼いた。軽症1名	不明	出火直前、2階西側の6畳間で洗濯物を乾かすため石油ストーブを使用していたので、洗濯物がストーブに落下して燃えたのを原因とみている。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
34	(株)トヨトミ	2004	石油ストーブ	RCA-68	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	芯のかみこみ他回答。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
35	(株)コロナ	2004	石油ストーブ	SX-D27WY	④	木造一部二階建ての住宅約165メートルを全焼した。	不明	ストーブの周囲に設置されたガードにかけていたタオルが揺らぎ、ストーブの火と接触により着火し火災に至ったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
36	(株)トヨトミ	2004	石油ストーブ	RCA-66	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
37	(株)コロナ	2004	石油ストーブ	SX-E26Y	④	木造2階建て住宅の1階渡り廊下から出火し、壁など約2平方メートルを焼いた。	不明	渡り廊下で2台のストーブを向かい合わせにして使用しており、その間(約90センチメートル)には段ボールが置かれていたため、段ボールにストーブの火が引火し、火災に至ったものと推定される。			○	1995年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
38	㈱トヨトミ	2004	石油ストーブ	RCA-68	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
39	㈱トヨトミ	2004	石油ストーブ	RCA-35	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取説送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
40	㈱トヨトミ	2004	石油ストーブ	RCA-35	④	木造2階建てアパートの一室より出火し、アパートを全焼。2名が軽症	不明	ストーブを消火せずに給油を行い、カートリッジタンクを本体に戻す際、天板にぶつけタンクのふたの軸が押され灯油がこぼれ引火し、火災になったと消防署は推定している。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
41	㈱コロナ	2004	石油ストーブ	RX-D27W	④	鉄筋プレハブ2階建ての民家から出火、約115平方メートルを全焼し、2人が死亡した。	不明	消防の調査では、石油ストーブの燃料タンク室内にカートリッジタンクのふた(ネジ式)が残存していることから、給油中にふたを完全に締めなかったため、漏れた灯油に石油ストーブの火が着火し、火災に至ったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
42	㈱トヨトミ	2004	石油ストーブ	RC-276	④	当日、午後7時頃石油ストーブに給油後点火する。15分～20分後燃焼筒の赤熱度合いが悪いため、燃焼筒を直接手で持ち上げて確認しようとしたところ、過剰空気が入ったため立炎及び黒煙が立ち上がりツツミを消火方向に回したが炎が見えたため毛布を2枚ストーブ本体にかける。毛布に引火したためストーブ本体を外に投げ捨てた。毛布より引火し火災事故となる。	不明	燃焼筒の赤熱度が悪かったのは、燃焼に必要な空気が新聞紙やゴミにより充分供給されて(油受け皿下から大量に出て来た)おらず燃焼不良を起こしていたと推測する。器具には異常なし。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
43	㈱コロナ	2004	石油ストーブ	SX-B26Y	④	木造2階建て住宅の2階寝室から出火、約70平方メートルを焼き、さらに隣接する住宅など計4棟を焼いた。	不明	消防の調査では、被害者が2階の寝室で、コートをつけたハンガーをタンスの天板に引っかけて干していたところ、コートがハンガーから滑り落ちて下にあったストーブに接触し、ストーブの火がコートや周囲に燃え移り火災に至ったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
44	㈱コロナ	2004	石油ストーブ	SX-2250	①④	木造2階建て住宅から出火、約244平方メートルを全焼し、さらに木造平屋物置を半焼し1名が死亡した。	約3年	警察の調査では、家人が、石油ストーブに農作業機具(草刈機など)に使用するためのガソリンを灯油と間違えて給油したため、異常燃焼を起こし、出火したものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
45	㈱コロナ	2004	石油ストーブ	SX-C180	④	木造2階建て住宅から出火、約150平方メートルを全焼し、隣家の駐車場の屋根を焼いた。	不明	石油ストーブの燃焼筒に多量のススが附着していたため不完全燃焼を起こし、吹き返し現象(本来、燃えるはずの灯油の蒸気が燃えずに液化し、たれてきた灯油に芯の炎が引火してストーブの底から炎が吹きだし火災になる)が発生した可能性もあるが、燃焼筒が正しく設置されていた等詳細な使用状況が不明であり、原因の特定はできなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
46	㈱コロナ	2003	石油ストーブ	SX-E210Y	④	すし店から出火し、木造平屋約100平方メートルを全焼した。	不明	警察の調査では、石油ストーブに近接して置いてあった可燃物が過熱し、出火したものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
47	㈱トヨトミ	2003	石油ストーブ	RS-276	④	高床式木造2階建ての住居の1階部分50㎡が焼けた。	不明	火元は1階居間。使用していた室内で、ストーブの上に衣類を掛けていたため何らかの原因で火が燃え移ったと消防、警察では判断。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
48	シャープ(株)	2003	石油ストーブ	HSR-26LB	①	家屋3棟全半焼、1名死亡	1～3年	給油タンクのキャップ締め忘れ(消防調査結果)			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
49	シャープ(株)	2003	石油ストーブ	HSR-25E	④	家屋全焼	24年	給油タンクのキャップ締め忘れ (消防調査結果)		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
50	シャープ(株)	2003	石油ストーブ	HSR-24N	④	家屋全焼、1名火傷	3～7年	ストーブの上に何かが落下し火災に至ったものと 見ているが、焼損が著しく原因の特定はできな かった (消防調査結果)			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
51	(株)コロナ	2003	石油ストーブ	SL-220	④	ダンボール箱製造工場から出火、約297平方 メートルを全焼し、工場の隣に駐車中のトラック 1台を焼いた。	不明	消防の調査では、石油ストーブの周りにダンボ ールをコの字形に並べて乾燥していたが、石油ス トーブとの距離が近かったために、輻射熱でダン ボールが過熱し、出火したものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
52	シャープ(株)	2003	石油ストーブ	HSR-C25	④	家屋全焼	11年	給油タンクのキャップ締め忘れ (消防調査結果)		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
53	(株)トヨトミ	2003	石油ストーブ	RS-L21	④	消防より、発生した火災について照会があった。 事故に関する詳細情報は得られず。	不明	ガソリン使用。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
54	(株)トヨトミ	2003	石油ストーブ	RC-301S	④	警察より、発生した火災について照会があった。 事故に関する詳細情報は得られず。(ユーザーがスプレ ー缶をストーブの上に置いた火災)	不明	カクガ、展開図送付。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
55	(株)コロナ	2003	石油ストーブ	SX-3020	①④	木造2階建て住宅の1階から出火、約90平方 メートルを全焼し、逃げ遅れた住人が1人死亡し た。	不明	消防の調査では、普段から洗濯物を長押(なげ し)にハンガーで吊して石油ストーブで乾かす習 慣があったことと、石油ストーブ周辺よりハン ガーが2本発見されたことから、洗濯物が石油ス トーブの上に落ちて着火し、火災に至ったものと みている。		○		1995年4月～2006年12月	
56	(株)ニッセイ	2003	石油ストーブ	NCH-S24L	④	火災現場にストーブがあった	1年以上	詳細情報なし			○ 不明	2001年1月～2006年12月	2003/4/22製品評価技 術基盤機構四国支所
57	(株)コロナ	2003	石油ストーブ	RX-D18	①④	木造二階建て住宅一棟を全焼し、居間付近から焼 死体が見つかった。	不明	消防の調査では、乾燥中の洗濯物が落下し、落下 した可燃物に石油ストーブの火が引火し、火災に 至ったものと見ている。		○		1995年4月～2006年12月	
58	(株)トヨトミ	2003	石油ストーブ	RS-277	④	民家の居間の石油ストーブから出火し畳の一部を焦 がした。	不明	消費者が農機具の混合油を誤って使用し、点火後 約10時間のあとに異常燃焼を起こしている。燃料 の誤使用が原因。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
59	(株)コロナ	2003	石油ストーブ	SX-C180	④	2階建て店舗兼住宅から出火、2階部分約261平 方メートルを全焼した。	不明	石油ストーブに点火したところ赤火が出た為布団 をかぶせたが布団に火が燃え移り火災となった。		○		1995年4月～2006年12月	
60	(株)トヨトミ	2003	石油ストーブ	R-375	④	木造平屋住宅から出火し、同住宅を全焼して隣接 住宅の外壁や屋根を焼いた。	不明	消防では石油ストーブから出火したとの使用者申し 出により、詳しく調査したが、器具に異常は認めら れないために原因不明で処理された。「原因不明」			○	1981年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
61	(株)ニッセイ	2003	石油ストーブ	NC-S261	④	火災	5年以上	取扱		○		2001年1月～2006年12月	2003/4/30独立行政法人製品評価技術基盤機構東北支所
62	(株)コロナ	2003	石油ストーブ	RX-D27W	④	木造2階建て店舗兼住宅から出火し、約27平方メートルを焼き、家人が顔などに火傷を負った。	不明	消防の調査では、石油ストーブを消さずにカートリッジタンクに給油後、カートリッジタンクのふたの締め方が不十分だったため、漏れた灯油にストーブの火が引火し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
63	(株)コロナ	2003	石油ストーブ	SL-111	①④	木造平屋建て住宅の居間から出火、約70平方メートルを全焼し、焼け跡から遺体が発見された。	不明	消防の調査では、石油ストーブに布団が接触したのに気づけなかったため、ふとんが過熱し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
64	(株)コロナ	2003	石油ストーブ	NX-22Y	①④	木造2階建て住宅から出火、約235平方メートルを全焼し、焼け跡から家人の遺体が見つかった。	不明	消防の調査では、カートリッジタンクに給油後、ストーブに装填する際、ワンタッチ式ふたのレバーをストーブガードの金網に引っかけてしまったためふたが開き、漏れた灯油にストーブの火が引火し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
65	(株)コロナ	2003	石油ストーブ	RX-D22	④	石油ストーブ付近から出火し、住宅152平方メートルと隣接する作業小屋の壁を焼いた。	不明	消防の調査では、石油ストーブの上に吊っていた洗濯物が落下し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
66	(株)コロナ	2003	石油ストーブ	型式不明	④	木造3階建て店舗兼住宅から出火し、1階の小物置き場を焼いた。	不明	消防の調査では、ストーブの上にハンガーに掛けた洗濯物が干してあったことから、洗濯物がストーブに落下したため、ストーブの火が洗濯物に着火し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
67	(株)トヨトミ	2003	石油ストーブ	RCA-100B	④	燃焼中のストーブを持って移動中、転倒し、ストーブを投げつけた。助けを呼んでいる間に別荘が全焼。	不明	本人不注意であるが、警察への説明と保険会社への説明が異なるため警察が来社。(放火の疑い)「詳細不明」		○		1981年4月～2006年12月	
68	(株)ニッセイ	2003	石油ストーブ	NC-S2300	④	火災	生産1994年	詳細情報なし		○ 不明		2001年1月～2006年12月	2003/1/19独立行政法人製品評価技術基盤機構北関東支所
69	松下電器産業(株)	2003	石油ストーブ	OS-D25	④	石油ストーブを使用中、漏れた灯油に着火し、ストーブの周辺を焼いた。	不明	誤使用(給油キャップ締め忘れと推定)		○		1987年1月～2006年12月	
70	日立アプライアンス(株)	2002	石油ストーブ	OVH-F220	①	木造二階建て住宅約60m ² を全焼したほか、隣接住宅の外壁を焦がした。出火元の二階六畳間から男性の遺体が見つかった。	不明	(独)製品評価技術基盤機構と共同調査し、給油口口金部が偶発的加工不良で故障し多量の油が口金部から漏れる状態で使用し続けていたことが原因で「使用者の不注意・誤使用」により発生したと推定。消防署の見解は原因特定できず不明。	○	○	○	1963年8月～2007年1月	
71	シャープ(株)	2002	石油ストーブ	HSR-37G	④	小屋全焼	20～21年	ストーブの上に置いていたライターから漏れたガスに、ストーブの火が引火したと推定(消防調査結果)		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
72	(株)トヨトミ	2002	石油ストーブ	RCA-100B	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書、構造図、生産時期送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。		○		1981年4月～2006年12月	
73	(株)コロナ	2002	石油ストーブ	RX-260	④	台所のストーブ付近から出火し、木造2階建て店舗兼住宅約148平方メートルを全焼した。	不明	消防の調査では、カートリッジタンクのキャップが半分しか閉まっていなかったため、漏れ出した灯油に石油ストーブの火が引火し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考	
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中			
74	㈱コロナ	2002	石油ストーブ	SX-C180	④	住宅1階居間でストーブ周辺から出火し、床を焦がした。家人が逃げの際に煙を吸って病院に収容された。	約7年	消防の調査では、石油ストーブの上部に掛けて干してあった洗濯物が落下したため着火し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月		
75	㈱トヨトミ	2002	石油ストーブ	R-31	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	生産年度の照会があったのみ。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○		1981年4月～2006年12月	
76	㈱コロナ	2002	石油ストーブ	SX-3080Y	④	石油ストーブのカートリッジ式タンクに給油してストーブにカートリッジ式タンクを入れようとしたら、タンクのフタが開き、灯油がこぼれてポット部から炎が出て、燃焼筒から炎が出て、2階建て住宅の218平方メートルが半焼した。	不明	調査中			原因不明 処理済		1995年4月～2006年12月	
77	㈱コロナ	2002	石油ストーブ	SX-B180	④	木造一部2階建て住宅の石油ストーブのある1階寝室から出火、約160平方メートルを全焼し、家人2人が死亡、1人が重傷の骨折、1人が軽傷の火傷を負った。	不明	消防の調査では、石油ストーブに不具合はみられず、石油ストーブの近くにあって可燃物に着火したものとみているが、焼損が著しく、原因の特定はできなかった。			原因不明 処理済		1995年4月～2006年12月	
78	㈱トヨトミ	2002	石油ストーブ	RCA-870	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書、生産履歴送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○		1981年4月～2006年12月	
79	㈱トヨトミ	2002	石油ストーブ	RS-270	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○		1981年4月～2006年12月	
80	㈱コロナ	2002	石油ストーブ	RX-D18	④	点火していたストーブを消そうとしたが消えず、燃え広がり、2階建て住宅の1階居間の一部を焼いた。	不明	警察の調査では、被害者が石油ストーブにガソリンを灯油と間違えて給油したため、異常燃焼を起こし、火災に至ったものとみている。			○		1995年4月～2006年12月	
81	㈱トヨトミ	2002	石油ストーブ	RCA-36C	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	各部温度測定データ提出。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○		1981年4月～2006年12月	
82	㈱トヨトミ	2002	石油こんろ	HH-216	④	木造2階建て住宅から出火し、1、2階部分約60㎡を焼き、夫が煙を吸い込んだほか妻が手に軽い火傷をした。(後日、消防本部から消火位置等の照会有り)	3年	洗濯物5枚程度を物干しに掛けていた。竿の片方がはずれコンロに落下。コンロ使用中、使用者はうたた寝をしていた。「誤使用」			○		1981年4月～2006年12月	
83	㈱コロナ	2002	石油ストーブ	SX-C180	④	木造2階建て住宅から出火、約70平方メートルを焼いた。	不明	消防の調査では、被害者がカートリッジタンクのキャップを閉め忘れたため、灯油が漏れ、漏れた灯油にストーブの火が引火し、火災に至ったものとみている。			○		1995年4月～2006年12月	
84	㈱トヨトミ	2002	石油ストーブ	RCA-106/101	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。(事故現場に、複数台あった。)	不明	芯関係位置図送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○		1981年4月～2006年12月	
85	㈱コロナ	2002	石油ストーブ	SX-E260Y	④	木造2階建て住宅から出火、約92平方メートルを全焼した。	約1ヶ月	消防の調査では、石油ストーブの上部に干していた洗濯物が、乾いて軽くなり、何らかの拍子で落下したために、火災に至ったものとみている。			○		1995年4月～2006年12月	
86	㈱コロナ	2002	石油ストーブ	SX-C180	④	木造平屋建て2軒長屋の一室から出火し、長屋2棟約160平方メートルと隣の建物約80平方メートルを焼き、1人が死亡、1人が顔や腕に火傷を負った。	不明	警察の調査では、石油ストーブの上に可燃物を置いていたことから、可燃物に着火し、ストーブ付近のカーテン等に燃え移り火災に至ったものとみている。			○		1995年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
87	(株)コロナ	2002	石油ストーブ	SX-D27WY	④	木造2階建て4軒長屋の被害者宅から出火、4軒で計197平方メートルを焼き、3名が軽傷を負った。	不明	消防の調査では、石油ストーブの近くに置いてあった洗濯かごが倒れて、中の衣類にストーブの火が引火し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
88	(株)ニッセイ	2001	石油ストーブ	NC-S24F	④	ストーブ点火時に異常燃焼	生産1997年	詳細情報なし			○ 不明	2001年1月～2006年12月	2002/4/26独立行政法人製品評価基盤機構中部支所
89	(株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	RCA-104	④	点火後30分程度放置した石油ストーブから出火し、畳3枚の各一部及び蛍光灯1基を各々焼損した。(来客予定の部屋を暖めていた)	11年	燃焼筒を持ち上げチャッカマンで点火した際、燃焼筒を正しい位置にセットしないまま芯の先端を13箇所噛みあわせた状態で放置したため異常燃焼を起こし、事故に至る。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
90	(株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	RCA-105	④	母屋全焼。ストーブに点火し、しばらく外に居て戻ってみると。黒煙を出し炎も出た。布団を掛けて消火しようとするが拡大被害となった。	2年	取扱説明書送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
91	(株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	R-375/R-265	④	火災(住宅1棟約126㎡全焼)。ストーブを誤って倒したことが原因と見ているが、但し芯上下カバーは消火位置にあった。	不明	事故に関する情報が無く原因不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
92	(株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	RCA-37	④	石油ストーブに給油中、出火し居間のじゅうたんを焦がした。	10年以上	石油ストーブの火を消さずに、カートリッジタンクを取り出し給油後、タンクの給油口キャップを十分に締めず、石油ストーブにセットしたため給油口キャップが外れて、漏れた灯油に引火し火災に至った。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
93	シャープ(株)	2001	石油ストーブ	HSR-24W	①	家屋2棟全半焼、1名死亡	17年	ユーザーの給油時の取り扱いミス(消防調査結果)		○		記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
94	(株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	RS-L21	①	1階の居間付近から出火し、木造2階建て住宅180㎡を全焼し、家人が焼死した。1名焼死	不明	室内に干していた洗濯物が石油ストーブの上に落下し燃焼拡大したもので、使用者の不注意、誤使用と調査報告がされている。(魚津市消防署)「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
95	(株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	RCA-37	④	木造2階建て住宅から出火し、約320㎡を全焼した。	不明	消防では、カートリッジタンクに誤ってガソリンを給油したことが原因とみている。(消防本部)「ガソリン使用」「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
96	(株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	RS-276	④	警察署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書、芯調節器資料送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
97	三洋電機(株)	2001	石油ストーブ	OHR-B225	④	全焼火災。	不明	消防にて調査。調査結果原因は不明。			○	1986年1月～2006年12月	
98	(株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	RCA-107	①	3戸並びで両隣が空屋の中央住居より出火した。3戸約100㎡のうち中央29㎡及び北・南隣小屋裏25㎡を焼失し、独居老人1名が焼死した。	不明	状況にやや不審点があり①タンクが抜かれており後方1mにあった②芯筒下に封書あり、ストーブ前面で死亡。真の原因は不明「原因不明」			○	1981年4月～2006年12月	
99	(株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	RCA-87	④	石油ストーブに給油するため、燃焼させたままカートリッジタンクを抜き出した。給油後カートリッジを石油ストーブに入れる際、途中でカタンと音がしたので確認のため抜き出したら、口金が外れており、大量の灯油がストーブ上にこぼれ燃え上る。被害は畳3枚	不明	給油時に消火操作せず給油した。カートリッジタンク口金を確認していなかった。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
100	株)コロナ	2001	石油ストーブ	SX-1800DX	④	木造2階建て住宅から出火、住宅と平屋建て納屋など3棟を全焼し、隣接する住宅など2棟を部分焼した。	不明	消防の調査では、石油ストーブを消火したつもりで外出したが、消火レバー（芯調整レバー）が消火位置まで戻っておらず燃焼が継続、帰宅後燃焼に気付いた家人が慌てて消火を試みたところ、弾みで燃焼筒がズレたために一気に炎が拡大し、付近のボロ切れに延焼拡大したものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
101	株)トヨトミ	2001	石油ストーブ	RC-296PC	---	約5年前に購入した石油ストーブを2ヶ月前から使用し大晦日から正月にかけて丸1日以上使用していたところ突然50cmくらい炎が高く上がり、スが飛び散った。すぐ消火したがストーブ下部まで燃えていた。	5年	燃焼用空気取り入れ部である芯案内筒と置台の隙間に多量の埃・ゴミがあり空気不足となり炎が伸びた状態となったもの。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
102	株)コロナ	2000	石油ストーブ	型式不明	④	木造平屋建ての母屋約11.5平方メートルを全焼し、更に同じ敷地内の木造2階建ての納屋を半焼した。	不明	使用者の使用ミス。		○		1995年4月～2006年12月	
103	株)トヨトミ	2000	石油ストーブ	RCA-25	④	全焼。警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	対震消火装置構造図送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
104	株)コロナ	2000	石油ストーブ	DX-H22	④	アパートの2階から出火し、約90平方メートルを焼いた、1名が軽いやけど。	不明	灯油とガソリンを間違えて給油したため、異常燃焼を起こし火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
105	株)トヨトミ	2000	石油ストーブ	R-375	④	警察より、火災熱によって、油タンク内の灯油が押し出される量の照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	照会事項の回答。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
106	株)コロナ	2000	石油ストーブ	SX-2270	④	木造一部2階建て住宅から出火し、同住宅約100平方メートルを全焼した。	不明	カートリッジタンクに灯油を入れた際、タンクのキャップを完全に締めなかったために灯油が漏れ出し、漏れた灯油に引火し、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
107	株)コロナ	2000	石油ストーブ	SX-2200	④	浴室の脱衣場から出火し、木造一部2階建て住宅約200平方メートルを全焼した。	不明	消防の調査では、浴室の脱衣場で、物干し竿に掛けて乾燥させていたタオルが石油ストーブの上に落ち、火災に至ったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
108	株)トヨトミ	2000	石油ストーブ	KSA-120B	④	油量計が「0」を示している時ガソリンを半分まで給油し点火。点火後30分くらいで芯を下げて外出。1~2時間後に火災。	不明	「ガソリンの使用」「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
109	株)トヨトミ	2000	石油ストーブ	RCA-102	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取説、油量計材質他資料送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
110	株)トヨトミ	2000	石油ストーブ	PS-235JIK	④	アパート火災(半焼程度)。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	天板の上に何かが落下して、引火した模様。取扱説明書送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
111	株)コロナ	2000	石油ストーブ	SX-1800	④	木造一部2階建て住宅から出火し、約90平方メートルを全焼した。	不明	石油ストーブ（反射型）と石油ファンヒーターを使用していたが、ティッシュペーパーを箱から取り出し石油ストーブ付近において、一時外出したため、石油ファンヒーター等の風の影響で石油ストーブに接触し、着火したものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
112	三洋電機(株)	2000	石油ストーブ	YS-228	④	室内焼損し、男性1名やけどで入院焼死。	不明	警察が調査のため、持ち帰り。調査結果は不明。			○	1986年1月～2006年12月	
113	(株)コロナ	2000	石油ストーブ	SX-2100X	④	木造一部2階建て住宅兼事務所から出火し、約195平方メートルを全焼した。	不明	干した洗濯物にストーブの火が燃え移ったとみているが、出火に至る経過及び着火物については特定できなかった。なお、石油ストーブに異常燃焼を起こした形跡等は認められなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
114	(株)トヨトミ	2000	石油ストーブ	RS-217/KRS-217	④	警察署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書を送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
115	(株)トヨトミ	1999	石油ストーブ	RS-276	---	新聞報道によると、京都市消防局はガソリンが混じった灯油を販売店から購入した。灯油がガソリンが混入が原因で、石油ストーブから出火し、ストーブのみを焼いた。けが人、その他の被害なし	不明	消防局予防課よりプライバシーに関する問題のため返答できない。「ガソリン混入燃料販売」			○	1981年4月～2006年12月	
116	(株)トヨトミ	1999	石油ストーブ	RC-276	④	娘がAM4:30頃点火し、AM6:00頃まで使用(消火したといってる)。娘と主人は外出、PM0:00頃在宅していた妻が昼食中に「パッ、パッ」という音がしたので、2階に上がってみると、娘の部屋のストーブ付近が燃えていた。半焼(2階部分)	不明	消防としては、娘が消し忘れた又は消火不十分で、燃焼していた状態において、可燃物が落下、又は接触し火災に至ったと見ているが、世帯主は、機能不良で、消火したが、燃焼していたのではないかと主張している。「原因不明」			○	1981年4月～2006年12月	
117	(株)トヨトミ	1999	石油ストーブ	NT-182	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	使用者の取り扱いミスとの事。「詳細不明」			○	1981年4月～2006年12月	
118	シャープ(株)	1999	石油ストーブ	HSR-30N	④	家屋全焼	1～3年	ガソリン誤使用 (消防調査結果)			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
119	(株)コロナ	1999	石油こんろ	KT-11	②④	居間の石油こんろが燃え上がり、畳の一部を焦がし、被害者が両手両足に火傷を負った。	不明	消防の調査では、被害者が石油こんろの火を消さずに給油した際、灯油をこぼしたため、こぼれた灯油に引火し、火災に至ったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
120	(株)トヨトミ	1999	石油ストーブ	PS-238JIK	④	おばあさんがポリ容器より灯油と思いストーブのタンクに入れた。点火後、外で仕事をして戻ると火が大きくなっていたので消火操作し、まもなくポツという音と共に炎が燃え上った。住宅内部約100㎡全焼 軽症1名	不明	「ガソリン使用」「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
121	(株)コロナ	1999	石油ストーブ	SX-200	④	石油ストーブから出火し、石油ストーブ及びその周辺の床約1平方メートルを焼いた。	不明	消防の調査では、石油ストーブのカートリッジタンクに給油し、再び装着した際、カートリッジタンクのふたが正常に締められていなかったため、漏れた灯油に残火が引火して、火災に至ったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
122	松下電器産業(株)	1999	石油ストーブ	OS-D25	①	家屋全焼、1人死亡	不明	給油時キャップが外れ、灯油が引火			○	1987年1月～2006年12月	
123	(株)コロナ	1999	石油ストーブ	SL-11DK	④	飲食店から出火し、コンクリート造り2階建てビルの床など約47平方メートルを焼いた。	不明	警察の調査では、店員が清掃中につまずき、石油ストーブを倒してしまったため、ストーブの火がカーペットに燃え移り、火災になったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
124	(株)トヨトミ	1999	石油ストーブ	不明	④	住宅全焼 一部2階建て 60坪 (機種名他、詳細情報無し)	不明	不明			○	1981年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 10

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
125	(株)トヨトミ	1999	石油ストーブ	RCA-106	④	ペットショップ店でマッチにて点火後、2,3分現場を離れたらストーブから炎が出ていた。コンテナハウス半焼。	不明	資料送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
126	(株)トヨトミ	1999	石油ストーブ	RCA-67	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書を送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
127	(株)コロナ	1998	石油ストーブ	RX-A18	④	2階子供部屋から出火し、木造2階建て店舗兼住宅のうち住居部分約80平方メートルを焼き、男性1名が消火活動中、顔などを火傷した。	約6年	事故品の状態及び事故時の点火操作状況から、燃焼筒を持ち上げてマッチで石油ストーブに点火した際に、燃焼筒が正しい位置にセットされていないことに気付かず使用したため、異常燃焼を起こし火災に至ったものと推定される。			○	1995年4月～2006年12月	
128	(株)トヨトミ	1998	石油ストーブ	RCA-102	④	捨ててあったものを拾って使用した。プレハブ全焼。	不明	取扱説明書、他を送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
129	(株)コロナ	1998	石油ストーブ	型式不明	④	住宅から出火し、木造2階建て住宅延べ70平方メートルを全焼した。	不明	2階の部屋でふとんをタンスの上に置き、石油ストーブを使って乾かしていたため、ふとんがストーブの上に落ち火災に至ったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
130	(株)トヨトミ	1998	石油ストーブ	RCA-87	④	取り扱い不注意による出火。全焼、怪我人一人とのこと。	不明	取扱説明書送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
131	(株)トヨトミ	1998	石油ストーブ	RCA-104	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	ストーブが原因かどうかは当時の資料からは不明。資料送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
132	(株)トヨトミ	1998	石油ストーブ	RCA-105	①	(全焼、1名死亡、1名重症) 警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	芯調節器、対震自動消火装置、芯の構造、取扱説明書送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
133	(株)コロナ	1998	石油ストーブ	SX-2200	④	木造2階建て住宅から出火、約160平方メートルを全焼し、隣接する住宅の外壁などを焦がした。	約5年	消防の調査では、石油ストーブにガスライターを使用して点火後、燃焼筒を正しくセットしなかったため、異常燃焼を起こして火災に至ったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
134	(株)コロナ	1998	石油ストーブ	IX-18	④	アパートの一室から出火し、居間など約40平方メートルを焼き、被害者が両手に軽い火傷をした。	不明	被害者の不注意とみられる			○	1995年4月～2006年12月	
135	(株)トヨトミ	1998	石油ストーブ	RC-296S	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書、対震装置資料送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
136	(株)コロナ	1998	石油ストーブ	RX-150	④	石油ストーブから出火し、住宅約130平方メートルを全焼した。	不明	消防の調査では、石油ストーブのカートリッジタンクに給油した際、ふたを完全に締め付けずにストーブにタンクを戻そうとしたため、タンク内の灯油が漏れてストーブにかかり、ストーブの残火により着火し、燃え広がったものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
137	(株)トヨトミ	1998	石油ストーブ	RCA-880/RCA-37	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	資料送付。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの） 11

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
138	(株)トヨトミ	1998	石油ストーブ	RS-276	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。(後日、科捜研から、油タンク口の閉まり確認要望有)	不明	取扱説明書、カタログ送付、科捜研には、取扱説明書、油タンクを送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
139	(株)トヨトミ	1998	石油ストーブ	RCA-104	---	当日、午後7時40分頃点火し、テレビを見に行き8時頃、異常燃焼に気づき消火器で消火した。部屋はスで汚れ、衣類等も同様に汚れた。	4年	堆積した埃やマッチ棒7～8本の位置から、当日自動点火装置を使わず燃焼筒を持ち上げてライターまたはマッチ等で点火後、燃焼筒が正しい位置にセットされていないことに気付かず使用して異常燃焼を起こしたと判断している。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
140	松下電器産業(株)	1998	石油ストーブ	OS-227	④	火災現場に商品があった、石油ストーブが出火原因かどうか不明	不明	機器との因果関係不明			○	1987年1月～2006年12月	
141	(株)トヨトミ	1998	石油ストーブ	R-266	---	当日、朝6時30分頃娘さんが起きて部屋の石油ストーブとファンヒーターに点火し、そのままシャワーにいき部屋を離れた。約10分後ドンと2回大きな音がしたので母親が起きてきて、部屋を見ると石油ストーブから火が出ていたので、消火器で消した。尚、石油ストーブの点火は通常通り自動点火装置を使用し前日までは異常はなかったとのことである。	1年2ヶ月	調査品の痕跡からは石油ストーブが原因ではなく、油タンク蓋付近に何らかの可燃物が存在し、天板の熱によりその可燃物に引火し、油タンク蓋の隙間、油タンク等を伝い石油ストーブ背面BOX部に引火炎上したものと推測している。「原因不明」			○	1981年4月～2006年12月	
142	シャープ(株)	1998	石油ストーブ	HSR-24N	④	ボヤ火災 (床板畳1枚分焼損)	1～2年	ガソリン誤使用 (警察調査結果)			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	
143	(株)トヨトミ	1997	石油ストーブ	RCA-105	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
144	(株)トヨトミ	1997	石油ストーブ	RCA-100A	④	当日、午前1時頃近所の方が被害者宅より出火しているのを発見し、消防に連絡した。鉄筋レハブ造平屋建一棟8戸延べ165㎡の内144㎡焼失、その他焼損	不明	石油ストーブから10数センチのところにカーテン、雑誌、新聞などがあり、何らかの形で引火か。当人飲酒の上、居眠りの為「詳細不明」			○	1981年4月～2006年12月	
145	三洋電機(株)	1997	石油ストーブ	OHR-B6C	④	石油ストーブ周辺より出火し、家屋210m2を全焼	不明	科捜研の調査ではストーブ本体から3m離れた所にカートリッジタンクがごろがっていた、との情報あり。			○	1986年1月～2006年12月	
146	三洋電機(株)	1997	石油ストーブ	OHR-N256	①	火災により、男児3名が一酸化炭素中毒で死亡。	不明	消防の調査に立会い、機器内部から出火した可能性は低いとの見解。				1986年1月～2006年12月	もらい火の可能性
147	(株)トヨトミ	1997	石油ストーブ	RSA-11	④	警察署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	生産時期、対震自動消火装置構造、芯、取扱説明書送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
148	(株)トヨトミ	1997	石油ストーブ	RCA-104	④	壊れて取り外していた脱臭フィルターを、ユーザーが勘違いして、脱臭フィルターを燃焼筒に乗せたまま着火させ、その場を離れた為、出火。	不明	使用者の誤使用と消防は判断した。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
149	(株)トヨトミ	1997	石油こんろ	HH-216	①	製品が置かれていた1階の居間から出火し、木造住宅4棟を全半焼した。焼け跡から被害者の焼死体が発見された。キャップは外れていた。	不明	火が完全に消えていないのに給油をしたことから、漏れた灯油に引火し、火災になったものと見ている。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 12

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
150	㈱トヨトミ	1997	石油ストーブ	KSA-120B	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	警察によれば混合油とのこと。取扱説明書送付。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
151	㈱トヨトミ	1997	石油ストーブ	RCA-202	④	火災(全焼) 消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	給油中にカートリッジタンクをストーブにより掛けてその場を離れたことが原因とみて誤使用と消防は判断。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
152	㈱トヨトミ	1997	石油ストーブ	RCA-206	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	対震自動消火装置部分資料送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
153	㈱トヨトミ	1997	石油ストーブ	RCA-88	④	火災 2世帯全焼 5:27 ストーブから火が出ている。消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	生産年度、図面照会。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
154	㈱コロナ	1997	石油ストーブ	SX-20D	④	反射式石油ストーブに点火後、その場を離れて10分後に出火して、木造2階建て車庫兼事務所約39平方メートルを全焼した。	不明	警察及び消防の調査では、カートリッジ式のタンクに給油した際キャップを完全に閉めずにセットしたため、キャップ部から灯油が漏れ引火したものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
155	㈱トヨトミ	1997	石油ストーブ	RCA-100A	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書送付。事故に関する情報が無く、誤使用か詳細不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
156	㈱トヨトミ	1997	石油ストーブ	RCA-67	④	火災(全焼) 消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
157	㈱トヨトミ	1997	石油ストーブ	RCA-880	①	全焼人もなくなっている。消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	芯調節器構造図他送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
158	三洋電機(株)	1997	石油ストーブ	OHR-22A	④	ストーブを緊急消火時に炎が上がり、110m2を焼損。	不明	ハウス栽培用の灯油を使用。		○		1986年1月～2006年12月	
159	㈱トヨトミ	1996	石油ストーブ	RCA-100B	④	警察署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書、構造図、カタログ送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
160	㈱コロナ	1996	石油ストーブ	SX-1000X	①④	石油ストーブに給油しようとしたところ、こぼれた灯油に引火、布団を掛けて消そうとしたが燃え広がり木造2階建て住宅一棟約45平方メートルを全焼し、逃げ遅れた寝たきりの主人が焼死した。	約10年	給油の際、カートリッジタンクのふたの締め方が不十分な状態であったことからタンクに入れようと逆さまにした時に漏れた灯油に完全に消えていなかったストーブの火が引火し、燃え広がったものとみている。		○		1995年4月～2006年12月	
161	㈱コロナ	1996	石油ストーブ	SX-2200Y	①④	木造一部2階建て住宅の1階和室の石油ストーブ付近から出火し、約3平方メートルを焼き、1名が死亡、1名が火傷をした。	不明	被害者が誤って石油ストーブに混合油を給油し、使用したため、異常燃焼が発生し火災に至った		○		1995年4月～2006年12月	
162	シャープ(株)	1996	石油ストーブ	HSR-287	④	器具周辺の焼損	9年	消防署は、一般的には発生しない強力な電波ノイズによる誤動作の見解			○	記録がある限りさかのぼり調査～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの） 13

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
163	(株)トヨトミ	1996	石油ストーブ	KSA-105F	①	鉄筋3階建ての内部にある6畳間天井2.5m以下の部屋。畳敷で、隣の8畳との境はガラス戸である。夕方5時頃から使用していたのではないと思われる。発見は翌朝で、ストーブは燃えていた。入院し2日後に亡くなった。	不明	医者は一酸化炭素中毒との判断したが、事故品の燃焼確認では異常なし、誤診と思われる。			○	1981年4月～2006年12月	
164	松下電器産業(株)	1996	石油ストーブ	OS-228	④	木造平屋建て約130m2のうち約96m2を焼いた。(NITE情報)	不明	詳細不明			○	1987年1月～2006年12月	
165	(株)トヨトミ	1996	石油ストーブ	RCA-106	④	木造平屋建て住宅の居間付近から出火し、住宅を焼いた他、隣の外壁を焦がした。独り暮らしの被害者は身体後部の全身に火傷を負い、下半身裸で玄関前に座り込んでいるところを消防隊員に見えられ病院に運ばれたが意識不明の重体。	4年	カートリッジタンクの口金が完全に締め付けられておらず、使用者の取り扱い不注意とのこと。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
166	(株)トヨトミ	1996	石油ストーブ	RCA-88	④	当日、午前6時30分奥さまが点火し居間を離れる。7時頃異臭がするので居間を見に行くとストーブ全体から火柱が上がっていた。主人を起こしかへット、羽根布団をかけたが消火できず、家屋に引火し全焼となる。両隣と裏の民家3軒の外壁一部焼損 軽症1名	不明	消防の見解は、ストーブからの出火ではなく、ストーブの近接物にストーブの火が引火し、その火がストーブにまわったと推定。全焼の為、引火物の特定はできなかった。「原因不明」			○	1981年4月～2006年12月	
167	(株)トヨトミ	1995	石油ストーブ	RCA-102	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
168	(株)トヨトミ	1995	石油ストーブ	RCA-88	④	午後0時56分ごろ住宅から出火、木造平屋建て延べ58㎡を全焼、被害者は逃げる際に軽い火傷を負った。軽症1名	不明	チャッカマンにて点火後、燃焼筒が正常位置にのっていないため異常燃焼し、家屋に引火した。「誤使用」			○	1981年4月～2006年12月	
169	(株)トヨトミ	1995	石油ストーブ	RCA-105	④	弱燃焼にし、そのまま屋外作業をしていた。社員が事務所から煙が出ているのに気づき、事務所に戻ると、反射板の間から黒煙がでており、部屋の窓ガラスも黒くなっていた。消火のため事務所の外にまわりバケツに水を汲みストーブに放水した。水がストーブにかかったかかからないかぐらいに炎が燃え上り壁に引火し消火不可能となる。事務所まわりのプロパンガスもあり、類焼を防ぐのに精一杯で事務所は全焼した。	2年から3年	製品本体の焼損が激しく「原因不明」			○	1981年4月～2006年12月	
170	(株)トヨトミ	1995	石油ストーブ	RB-20A	④	火災発生(納屋全焼) 消防署より火災になる参考資料の問合せ。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	調査資料送付。事故に関する情報が無く原因不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
171	(株)トヨトミ	1995	石油ストーブ	RCA-28B	④	発生した火災について連絡があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
172	(株)トヨトミ	1995	石油ストーブ	RCA-106	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
173	(株)トヨトミ	1995	石油ストーブ	RCA-108	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの） 14

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考	
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中			
174	㈱トヨトミ	1994	石油ストーブ	RCA-374	④	当日、AM8時15分頃 2階6畳の息子さんの和室にある石油ストーブに点火し、1階に降りて15分~20分くらいでバリバリと窓ガラスの割れる音で2階に上がってみるとストーブの下方から火が出ており、消火操作したが消えなかったため掛け布団、毛布、敷布団をかぶせたが消えず。1階からバケツで水を運びかけても消えず、近くの人がストーブを外へ投げ出して消火した。消火の際、奥様が手足に火傷、ガラスで怪我をした。畳、天井、家具、障子の一部を焼損した。	1年	川口市消防本部と東京消防局の合同調査の結果では石油ストーブそのものに欠陥はなし。燃焼筒が浮き上がった状態で使用したものと思われる。「誤使用」		○		1981年4月~2006年12月		
175	㈱トヨトミ	1994	石油こんろ	HHA-6A-1	④	木造トナ葺平屋建納屋19.8㎡全焼損及び隣接するビニールハウス22.2㎡焼損	1週間	ガソリン混入か、又は、燃焼筒が正しくセットされていないかった。「原因不明」			○		1981年4月~2006年12月	
176	㈱富士通ビニール	1994	石油ストーブ	YK-23LD-W	④	石油ストーブ焼損	不明	調査を行ったが原因が特定できず(製品には異常が見受けられなかった)			○		1984年5月~2007年1月	
177	㈱トヨトミ	1994	石油ストーブ	RCA-88	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	取扱説明書、表示ラベル一式送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○		1981年4月~2006年12月	
178	㈱トヨトミ	1993	石油ストーブ	RCA-36B	④	消防からの火災についての照会で、試験依頼の為、事故に関する情報は得られず。	15年	輻射熱と消防は推測(測定温度の資料を送付)。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○		1981年4月~2006年12月	
179	㈱トヨトミ	1993	石油ストーブ	RCA-37	①	飲酒後、ストーブの前で焼死し家も焼けた。	不明	トヨトミに責任はないと思うが、不明な点の照会時にはよろしくとのこと。「詳細不明」			○		1981年4月~2006年12月	
180	㈱トヨトミ	1993	石油ストーブ	RCA-959	④	警察から火災事故に関連しての照会(足蹴りで消火し、本体が倒れて火事になるか?) 事故の詳細情報無し。	不明	生産時期、取扱説明書送付。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○		1981年4月~2006年12月	
181	㈱トヨトミ	1992	石油ストーブ	RCA-200	④	消火時ハンドルが重く動かなかったため、対震自動消火装置で消火した。本人は消えたつもりでいたが、約1時間半後室内が臭く起きてみたところ、燃焼筒下部が赤熱し、まだ消えていなかった。臭いので玄関の戸をあけた。数分後「ボン」と音がして、ストーブが燃え出し火災になる。自宅全焼、隣接部分焼損、けが3人	4年	芯にケル付着で完全消火していなかった。タンクから芯までの送油経路上に何らかの油漏れがあり、玄関を開けたために風の吹き込み等で引火したのではないかと消防は見ているが、メーカーの報告要望有。一気に火災が広がったことからガソリン等の揮発油が考えられると回答した。「詳細不明」			○		1981年4月~2006年12月	
182	㈱トヨトミ	1992	石油こんろ	HHA-7	④	ズボン乾燥中、ストーブの上にズボンが落ち火災。消防署からの照会で、試験依頼の為、事故に関する詳細情報は得られず。	不明	温度測定結果を報告。「誤使用」			○		1981年4月~2006年12月	
183	㈱トヨトミ	1992	石油ストーブ	RCA-204	④	警察より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	消火時の芯高さ照会。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○		1981年4月~2006年12月	
184	三洋電機㈱	1991	石油ストーブ	OHR-B8(K)	④	点火約3時間後、消火ボタンを押したところ、燃え上がり、家屋を全焼した。	約1年	現物は調査のため、警察が持ち帰り。調査結果は不明。			○		1986年1月~2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上)の負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの) 15

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
185	(株)トヨタミ	1991	石油ストーブ	KSA-105F	④	作業場で火事発生。ユーザーによると消火装置が芯につかえ、そのままの状態になって火災になったようだとのこと。	不明	消防から芯交換方法の注意書要求有「使用者 芯交換」		○		1981年4月～2006年12月	
186	(株)富士通ゼネラル	1991	石油ストーブ	YK-4600	④	石油ストーブ焼損し、木造モルタル2階建の2階部分全焼	不明	ストーブを消火しないまま灯油ストーブで給油し誤って灯油を燃焼部にこぼした		○		1984年5月～2007年1月	
187	松下電器産業(株)	1990	石油ストーブ	OS-228	④	家屋全焼	不明	ガソリン使用		○		1987年1月～2006年12月	
188	(株)トヨタミ	1990	石油ストーブ	RCA-202	④	木造二階建て、2階6畳間から出火。半焼。ストーブ以外に火元は無し。詳細情報無し。	2ヶ月	事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
189	三洋電機(株)	1989	石油ストーブ	YS-161G	④	石油ストーブを置いておいた約4畳の台所から出火し、木造2階建て住宅220m ² を全焼した。	不明	消防の見解では石油ストーブかガスコンロのどちらかが火元と思われるが、不明。				1986年1月～2006年12月	火元不明
190	(株)富士通ゼネラル	1989	石油ストーブ	YK-580A	④	石油ストーブ焼損	不明	誤ってガソリンを給油した		○		1984年5月～2007年1月	
191	三洋電機(株)	1989	石油ストーブ	OHR-S23J	④	自動点火時、本体下方より出火し、建物300m ² を全焼した。	4年1ヶ月	消防、警察、科捜研において調査。調査原因は不明。			○	1986年1月～2006年12月	
192	松下電器産業(株)	1989	石油ストーブ	OS-230	④	家屋全焼	不明	ガソリン混合油使用		○		1987年1月～2006年12月	
193	(株)トヨタミ	1989	石油ストーブ	RCA-88	④	当日、居住者が友達と飲んで21時頃帰宅。ストーブに火をつけて、すぐ寝る。23時30分頃、偶然に目が覚めた。ストーブ全体が赤く、床が燃え出した。布団を掛けたが消火せず。隣の人と水をかけたが消えないため逃げた。モルタル2階建て4室全焼	不明	推測であるが燃焼筒がずれていた可能性がある。焼損も激しいため原因の究明は困難、また、何らかの外的要因があるかもしれない。「原因不明」			○	1981年4月～2006年12月	
194	(株)トヨタミ	1988	石油ストーブ	RCA-36C	④	納経があり、終了後僧侶と座談中突然出火。隣家と2棟全焼(ストーブを点けたままカートリッジを取り外し給油して差し込んだところ、キャップの締めつけが悪く、灯油が漏れて火災となり自宅と隣家を全焼)	不明	消防の見解として、タンキャップパッキンが無く、キャップの締め付けが悪く、給油の際こぼれた油が油受けに溜まっており何らかの原因で、引火したと推定された。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
195	三洋電機(株)	1988	石油ストーブ	OHR-G28H	④	石油ストーブをマッチ点火した所、火が燃え上がり、家屋30m ² が全焼した。	不明	焼損がひどく、原因の特定は不可能。しかし、マッチ点火時、何らかの間違った操作があった可能性はある。			○	1986年1月～2006年12月	
196	(株)トヨタミ	1988	石油ストーブ	R-20	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	消防より、取説、消火装置の照会有。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
197	(株)トヨタミ	1988	石油こんろ	HH-2	①	1人死亡。建物全焼。詳細情報無し。	不明	独り暮らしで、寝たきりで目の不自由な本人が、燃焼しているヒーターを横転させてしまった。対震消火装置が付いていないため火災となり、火災による一酸化炭素中毒死した。「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの） 16

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
198	(株)トヨトミ	1987	石油ストーブ	RCA-36B	④	当日、午後10時35分頃、居間から出火。木造平屋141㎡の母屋と、南側の倉庫木造2階建20㎡を全焼した。人的被害なし	5年~6年	使用燃料に疑い、ストーブの構造的に欠陥はなしと判断。ストーブ損傷ひどく検査するも原因不明。「原因不明」			○	1981年4月~2006年12月	
199	松下電器産業(株)	1987	石油ストーブ	OS-181	④	家屋半焼	不明	誤使用 (押入れの中で誤って点火)			○	1987年1月~2006年12月	
200	日立アプライアンス(株)	1987	石油ストーブ	OVH-20AS	④	一戸建ての2階押入れから出火、2階部分焼失。	1年10ヶ月	シーズンオフに石油ストーブの電池を抜かないで保管、点火レバーが周囲物に押されて出火。			○	1963年8月~2007年1月	
201	シャープ(株)	1987	石油ストーブ	HSR-225	④	家屋全焼	2年	押入れに収納していたストーブの点火レバーを布団で押し下げたと推定 (消防調査結果)			○	記録がある限りさかのぼり調査~2006年12月	
202	日立アプライアンス(株)	1987	石油ストーブ	OVH-20B	④	4階建てビル地下1階の商品置き場で出火段ボール箱に入ったストーブを焼いた	不明	幅60cm通路に灯油と乾電池を入れたまま段ボール箱を被せて置いてあり、荷物運搬時にぶつかってストーブが点火して、被せた段ボールから延焼した。			○	1963年8月~2007年1月	
203	シャープ(株)	1986	石油ストーブ	HSR-225	④	器具周辺物焼損	1年	器具収納時、他の収納物が点火レバーを押し下げたと推定 (消防調査結果)			○	記録がある限りさかのぼり調査~2006年12月	
204	(株)トヨトミ	1986	石油ストーブ	KRA-85A	④	夕方より点火し、灯油が少なかったので消火後、すぐ給油したところ、給油口近くから火災となった。15㎡事務所全焼	不明	完全に消火されていなかったのではと推測される。「誤使用」			○	1981年4月~2006年12月	
205	(株)トヨトミ	1985	石油ストーブ	RCA-25	④	消防からの火災についての照会で、事故に関する情報は得られず。	不明	油タンクの気密性、ツマミ位置、機器本体の温度測定データ提出。事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月~2006年12月	
206	(株)トヨトミ	1985	石油ストーブ	RCA-28B	④	使用中、突然ストーブの下部より炎が出る。ストーブを動かしたところ炎上、全焼	2年	ガソリン使用 「誤使用」			○	1981年4月~2006年12月	
207	(株)富士通セネラル	1984	石油ストーブ	BK-507	④	石油ストーブ焼損	不明	給油口蓋を不完全のままセットしたため油がこぼれ燃えた			○	1984年5月~2007年1月	
208	(株)トヨトミ	1984	石油ストーブ	RCA-36A	④	お客が来るまでに応接間を暖めておこうとストーブに点火し部屋から離れる。5~10分してお客が来てストーブが燃えていることを発見。被害者があわててストーブを運び出すが、油がこぼれて下のじゅうたんが燃え全焼、事故当時ストーブの周りには可燃物なし、ストーブだけから発生。	不明	警察よりボリタンの残留物を調べたところ間違いなくガソリンである。さらに通産省に依頼して鑑定中。「ガソリン使用」「誤使用」			○	1981年4月~2006年12月	
209	(株)トヨトミ	1984	石油ストーブ	RCA-36C	---	警察より、製品について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。(火災事故?)	不明	ガソリンを使用した時の説明 「詳細不明」			○	1981年4月~2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの） 17

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
210	㈱トヨトミ	1983	石油ストーブ	KSA-105D	④	2時間ほど問題なく燃焼していたが、10分ほど部屋を離れている間に火災となった。全焼。	不明	部屋を出てドアを開閉した際に、圧力により押入れからマットレスがストーブの上に落下したのでは考えられる。(消防見解)		○		1981年4月～2006年12月	
211	㈱トヨトミ	1983	石油ストーブ	RCA-28B	④	火災(全焼) 発生した火災について連絡があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	ストーブの後ろにダンボールを置いて外出。「誤使用?」「詳細不明」			○	1981年4月～2006年12月	
212	㈱トヨトミ	1983	石油ストーブ	RCA-66	①	購入後3ヶ月、酒に酔って寝ていて目をあけた時ストーブより1m程度の火が出ていた。現品は火災に包まれ、全焼後掘り出された。1名死亡、1名負傷	不明	各種依頼試験実施。 事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
213	㈱トヨトミ	1983	石油ストーブ	RCA-36C	④	消防署より、発生した火災について照会があった。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	消防署はガスリン使用との見解。「ガスリン使用」「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
214	㈱トヨトミ	1983	石油ストーブ	RCA-36C	④	夕方5時頃から燃やし、その2時間後に本体の下側から突然火が吹き出した。消火器で一旦は消火したように見えたが、再び出火し、ほぼ全焼した。	2ヶ月	事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
215	㈱トヨトミ	1983	石油こんろ	HHA-2F	①	階下の異常に気が付いたときには、部屋中に火が回っていた。1名死亡	4年	芯上下が悪く、消火装置にて消火。芯の高さ9ミリ以上のため、消火装置が完全に作動せず。又、消火確認していない。「芯の組み付け不良」「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
216	㈱トヨトミ	1981	石油ストーブ	RCA-36B	①	3畳の部屋で使用。消火1時間後に発火。詳細は原因究明中の為不明。1名死亡	不明	使用者が前日給油所でガスリンを購入、その為ガスリンを使用したとのこと。「ガスリン使用」「誤使用」		○		1981年4月～2006年12月	
217	日立アプライアンス(株)	1975	石油ストーブ	OVC-A430S	④	鉄筋建築6畳間の家具、柱等を焼損、壁などは煤けた。家人は石油ストーブ運転したまま外出中だった。	2年1ヶ月	消防調査により、器体に異物が載り発火、後に床面に引火し延焼とみている。		○		1963年8月～2007年1月	
218	日立アプライアンス(株)	1973	石油ストーブ	OVC-A430S	④	消火操作したが消火せず炎が残り、本体から出火し、天井、畳3枚、建具8枚、タンス2本、テレビ1台を焼損して、隣人が消火器で鎮火した。	3日	芯を下げずに、手で消火装置を作動させて消火したので、消火が不完全で燃焼し続けて機体から出火した。		○		1963年8月～2007年1月	
219	日立アプライアンス(株)	1965	石油ストーブ	OVC-41	④	借間している二階4.5畳間で出火し、天井、布団3枚、畳3枚、カーテン1枚、家具が焼失した。住人は顔、手首に全治2週間のやけど。	不明	「顧客の取扱不注意により転倒したものと思われる。」と消防署の見解あり。		○		1963年8月～2007年1月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの） 18